

迷走地図増刊号

2017年9月1日

顔 施

村上 豊

小沢昭一が唄っていた。「小父さんには唄う歌がない」 昭和一桁生まれの悩みや苦痛を唄っている。

上の世代はジャズやシャンソン

「夕暮れに辿るは」「人の気も知らないで」

下の世代はカリプソ、ドドンパ

小沢が唄うところの小父さん達の青春開花期はドンパチ戦争の真っ只中で

「作れ送れ撃て！

今だ！がんばれ！」

洗脳されて日の丸鉢巻を締めなおしたら

敗戦 米軍上陸

証城寺の狸囃子のメロディで

「カム・カム・エブリボデイ」

鼓舞されることの無かった世代なのだ。

サラリーマンになりバブル期は「呑み会」は苦手だった。

歌は知らないわけではない。合唱団に入っていてソロもしたこともある。

だが呑み会でカーロミオベンは唱えるか。

シューベルトの「魔王」が唱えるか。

拍手係を自称したが通らなくなった。

呑み会が民謡酒場のときデビュー？した。

司会を頼まれもしないのに買って出た者が

「次は〇〇（勤務先）の立川澄人」仕方がないから佐渡おけさを三味線と太鼓の伴奏で、

「来いと言うたどてチョコラチョット隣の酒屋へ二合や三合の酒買いに行くよなわけには行かりよか佐渡へよ」アンコ入りで唄って舞台を降りようとしたら「もっとやれー」

口から出任せ出鱈目で

踊り踊るなら板の間で踊れば

一はお伊勢様皇大神宮

二つ伏見のお稻荷様よ

三は讃岐の金毘羅様よ

驚いたことに踊り子が数人出てきて引っ込みがつかなくなり、会場も「四！」

四は信濃の善光寺様よ！ 「五！」

五つ出雲のおおやしろおおやしろの大社 「六！」

六つ陸奥むつの国塩釜様よ！ 「七！」

七つ成田のお不動様よ！ 「八！」

八は八幡大菩薩様 「九！」

九つ高野のお大師様 「十！」

十は東京浅草寺 それに加えて拍子木 鼓板のひびきで三味いらぬ と三味線がびたつと止まった。会場一同ホッコリ灯ともし顔。

顔施をさずけられた。

さて、朝日新聞歌壇佐佐木幸綱選二位

じりじりと忍耐の糸が炙あぶられる子よパンツはけ、こらズボンはけ 笠井 真理
評 風呂から出て、裸のまま走り回っている幼児。お母さんの我慢の限界をうたうユーモア。(選者は自詠の「風呂場より走り出て来し二童子の二つちんぽこ端午の節句」を思い出しニッコリしたことだろう。)

酸つよき朝の柑橘を食みおれりこの世にふかき 幸 <small>さいわい</small> はあり	前田 透
ブルマースにて毬つく少女跳びまたぐとき両股 <small>もも</small> の反り <small>そ</small>	田谷 鋭
少年のすがしき未だ保ちゐて君にはGパンが一番似合ふ	河野 裕子
疑わず目守り <small>まも</small> てくるる人ありて生くる 幸 <small>さいわい</small> を今日思ふかな	高安 国世
深泥池 <small>みどろがいけ</small> の鴨が時雨に騒いでら いやだ野性といへ 贖金 <small>にせがね</small> は	岡井 隆
はじめての雪見る鴨の首ならぶ鴨の少年鴨の少女ら	佐佐木幸綱

顔施。

詠者たちもニッコリしただろう。

ほどこしほどこされて日日を送りたい。